

## 「沖縄21世紀ビジョン(骨子案)」

はじめに

[なぜ今、ビジョンが必要なのか]

我が国は、本格的な少子高齢化・人口減少社会が到来するなか、社会経済の急速なグローバル化への対応を迫られるなど、大きな転換期を迎えており、沖縄も決して例外ではない。

国民の多くが、現状への不満と将来への不安を抱いたまま、閉塞感に陥っている。いまこそ、次の世代をしっかりと見据えて、真の豊かさを追求する長期的な戦略の構築が求められている。

一方、地方分権改革が進展し、道州制議論が活発化するなか、沖縄振興計画が2012年3月に終了することや、大規模な米軍基地の返還が迫っていることなど、本県を取り巻く環境も大きく変化しつつある。

こうした変化を絶好の機会として捉え、果敢に挑戦していくとの決意をもって、沖縄の進むべき方向性の議論を開始しなければならない。

『基本的な考え方』「1(2)21世紀ビジョンの必要性」より

変化の激しいときこそ、地域にあっては長い目でものを見なければならない。新たな枠組みが未成熟なまま、古い伝統的なものが崩壊していくと、地域は衰退していくだけである。

このことを踏まえ、沖縄の将来像を描くうえで、何を残し何を变えていくかを明らかにし、課題と目標を県民全体で共有していくことが重要である。

豊かな自然や歴史、伝統・文化など、失われつつある沖縄の良さを守り継承するとともに、新しい時代に対応した社会システムの構築や地域の活性化につながる産業経済構造の変革などに、積極的に取り組んでいく必要がある。

沖縄の進路を切り開き、同時に閉塞した我が国経済社会の活路をも探るような思い切ったビジョンを策定するものとする。

**(富) ありたい沖縄、あるべき沖縄を示すと、現実の社会が別の方向に行った場合、軌道修正ができる。**

『基本的な考え方』「1(3)策定の視点」より

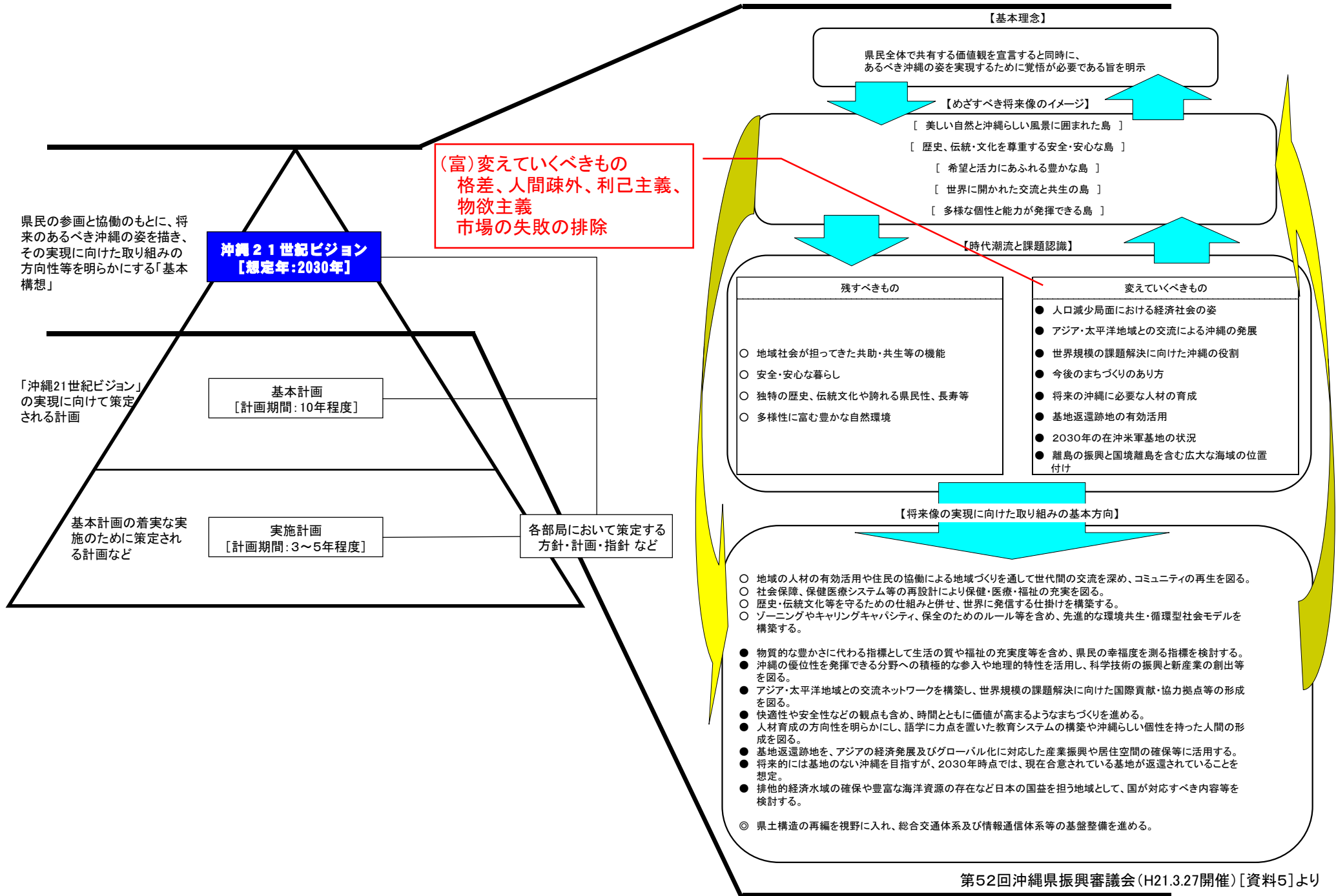
[21世紀ビジョンとは何か]

21世紀ビジョンは、県民の参画と協働のもとに、将来(概ね2030年)のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにする基本構想である。

本ビジョンは、沖縄県として初めて策定する長期の構想であり、沖縄の 将来像の実現を図る県民一体となった取り組み及びこれからの県政運営 の基本的な指針となるものである。

『基本的な考え方』「1(1)21世紀ビジョンとは」より

【図】 ビジョンと基本計画等との関係



## 1. 基本理念

(富)時代の変遷、社会の変化に対応、適応し、「人間を大切にす

る」沖縄の文化を守り、沖縄の人々の「暮らし(厚生)」を最大にする。(世界一の暮らし良さを目指す)

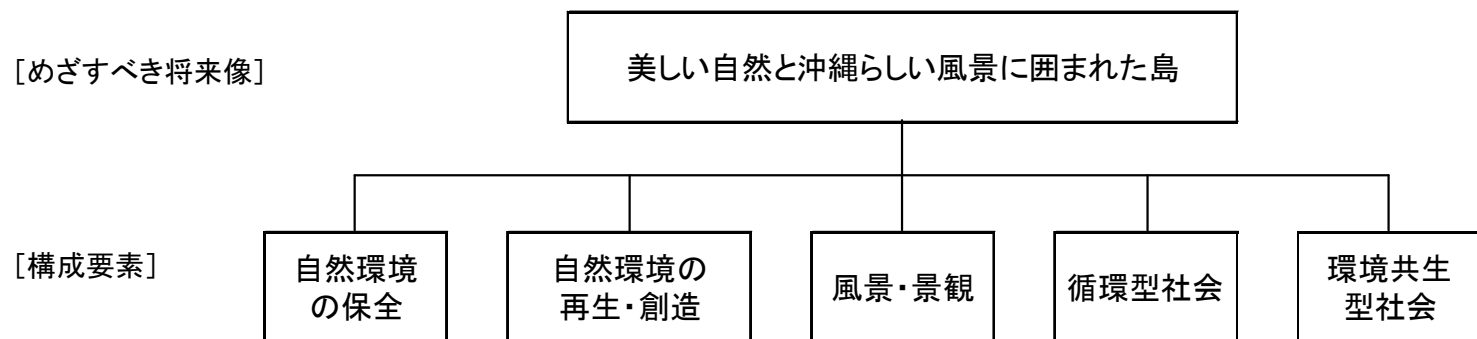
宣言性

思想性

対話の継続

(時代の変化に応じて見直しを検討)

## 2. めざすべき将来像



### [将来像設定の意義]

県民意見の多くが沖縄の将来像として「美しい自然環境」をあげており、ビジョンにおいて重要なポイントである。

沖縄の自然と風景は、人々の生活の舞台として重要である。

また、沖縄に暮らす人々の誇りの源となっている。

さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資源となっている。

世界的に見ても、東洋のガラパゴスとも称されるほど希少種が多く生息しており重要な地域である。

**(富)沖縄の自然、文化の持つポテンシャルをしかと認識し発展に資する。現代におけるソフトパワーの意義**

その一方で、島嶼地域という特性から環境は脆弱であり、貴重な資源である自然や風景を、劣化させることなく、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

①めざすべき将来像		構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (下線は、構成案での基本方向) (★は、戦略的な基本方向)
[具体的な姿]				
美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島	<p>人々は、年間を通して温暖な気候と沖縄らしい風景の下、生き生きとした生活を送っている。「自然は資源」との考えが共有され、環境を優先する意識を持った人々による自然に優しい生活や経済活動が営まれており、島嶼地域に合った循環型社会が確立している。</p>	自然環境の保全	<p>○島嶼地域の脆弱性に、どのように配慮すべきか。 ○生物の多様性を、どのように守るべきか。 <b>(富) 聖域(サンクチュアリー)の設定</b></p>	<p>●<u>ゾーニングやキャリングキャパシティ、保全のためのルール等を含め、先進的な環境共生・循環型社会モデルを構築する。</u></p>
	<p>沖縄らしい風景を形成している街並みは、亜熱帯島しょの特性に配慮され、自然と調和した風景が広がり、温暖な気候と相まって癒しの風土として息づいている。</p>	再生・創造の自然環境	<p>○本土復帰後の急速な社会資本の整備等の開発によって失った自然環境を、どう取り戻すべきか。 <b>(富) 環境容量(carrying capacity)の明確化</b></p>	<p>★キャリングキャパシティ等を踏まえ、「自然再生型」「環境創造型」の事業を計画的に導入する。</p>
	<p>豊かな自然の残る美ら島では、青い海と自然の海岸線がどこまでも続き、自然海岸と平行して連なるサンゴ礁により、イノー(礁池)の穏やかさが守られている。美ら島には、世界的にも貴重な生物が多く生息し、生物の多様性が守られている。</p>	風景・景観	<p>○沖縄らしい風景を、どのように考え、どのように活用していくべきか。</p>	<p>●歴史・伝統的背景を踏まえつつ、将来に向けて保全・創造していく。 ●<u>快適性や安全性などの観点も含め、時間とともに風景や景観の価値が高まるようなまちづくりを進める。</u></p>
	<p>こうした独特の自然や風景を求めて、国内外から多くの観光客が訪れ、癒しの風土の中で心身ともに健康になっている。多くの観光客が訪れることで、沖縄に暮らす人々に大きな経済効果をもたらしている。 また、多くの人々を魅了する自然と風景は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっており、物心両面での豊かさをもたらしている。</p>	循環型社会	<p>○環境と経済の好循環を、どのように構築すべきか。 ○持続可能な循環型社会を、どのように形成すべきか。 ○国際的な環境モデル地域を、どのように構築すべきか。</p>	<p>★動脈産業と静脈産業の一体化を図り、廃棄物資源の域内循環による環境ビジネスを創出する。 ●省資源、省エネルギー、リサイクルを徹底し、持続可能な発展を目指す。 ★新エネルギーの導入や省エネルギー、リサイクル等の技術革新を進め、世界に貢献する先進地域を構築する。</p>
	<p>人々が共有する環境と共生する社会づくりの意識は、地球温暖化対策の世界的なモデル地域を形成し、世界的にも注目を集めるエコアイランドとして世界中に情報発信されている。</p>	環境共生型社会	<p>○環境共生の意識を、どのように育むべきか。 ○環境共生型の生活環境を、どう構築するか。 ○農山漁村の多面的な役割を、どのように考えるか。</p>	<p>●人と自然が共生する潤いのある地域づくりに向けた県民意識の啓発を図る。 ●住民との協働による沖縄に合ったルールを構築する。 ●2030年の石油依存度低減目標(沖縄エネルギービジョン)を含め、エコを優先したライフスタイルや自然と調和した県土づくりを進める。 ●離島を含む農山漁村の一層の活性化を図る。</p>

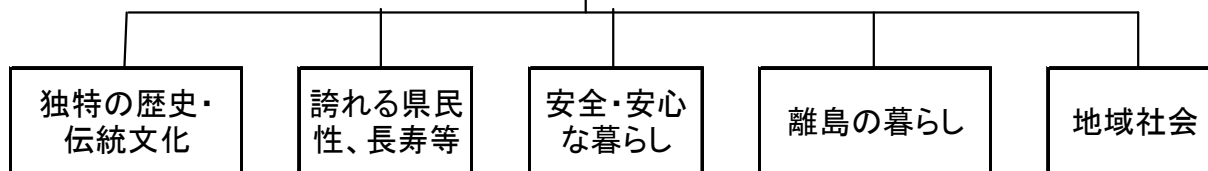
[実現効果]

沖縄で暮らす人々の生活に潤いと安らぎをもたらす。  
独特の自然と風景は、人々の誇りの源となっている。  
独特の自然と風景は、沖縄の資源として経済的な効果をもたらしている。  
来訪者に癒しを与え、国内外の人々の心身の健康に寄与している。  
世界のエコアイランドとして、地球温暖化など環境対策で技術貢献している。  
**(富)ソフトパワーによるビジネスの具現化でさらに進んだ先進国、ポスト先進国になれる。**

[めざすべき将来像]

歴史、伝統・文化を尊重する安全・安心な島

[構成要素]



[将来像設定の意義]

沖縄の歴史・伝統文化は連綿と受け継がれ、人々の生活の中にしっかりと息づき、切り離せないものとなっている。また、この伝統文化を拠り所として、世界中のウチナーンチュの「沖縄アイデンティティ」を形成している。この「沖縄アイデンティティ」は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっている。さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資産となっている他、我が国、ひいては世界文化の多様性の一角を担っている。

その一方で、伝統文化の担い手が不足しており、特に、人口減少・高齢化が著しい離島においては危機的な状況にある。沖縄の伝統文化を、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

(富) 沖縄の文化の現代、未来におけるポテンシャル

人が原点 人を昇華させる文化

衣食住足りて後は文化、芸樹等の精神活動に極端な格差のない島

①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (下線は、構成案での基本方向) (★は、戦略的な基本方向)
<p>琉球王朝時代より培われてきた伝統芸能や伝統工芸、食文化等が連続と受け継がれ、人々の生活の中に息づいている。人々にとって、この独特の文化や習慣は誇りの源となっており、沖縄に暮らす人々のみならず、世界中のウチナーンチュの沖縄アイデンティティを形成している。</p> <p>また、広大な海域に点在する多くの島々は、それぞれ独自の伝統文化を持ち、それぞれの島の多様な個性は、沖縄文化を奥深いものとし、この多様性が沖縄文化の価値を高めている。</p> <p>それぞれの島の伝統文化は、沖縄文化として世界に発信され、国内外の多くの人々を魅了し、「健康長寿の島」を支える食文化など沖縄文化を求めて、国内外から多くの観光客が訪れてる。</p> <p>歴史の中で培われてきた家族や地域との絆を大切にする文化や習慣は、肝心、イチャリバチョーデー、ユイマール等の「沖縄の心」として受け継がれ、人と人との絆の強い社会が形成されている。人々は、何よりも人を大切にし、心の豊かさに価値を見出している。</p> <p>人と人との絆の強さは、ユイマールに代表される相互に協力し合う社会をつくっている。一人ひとりが地域のために何ができるかを考え、行動する協働社会が実現している。</p> <p>一人ひとりが豊かな心と健康な体を持ち、世界一の長寿を誇っている。人々は、地域で取れた、人のぬくもりが実感できる産物を食し、安全で、安心な生活を送っている。</p> <p>また、一人ひとりが生きがいを持ち、暮らしたい島で働き、十分な医療が受けられ、文化的な生活を送っている。</p> <p>どの島で暮らしていても、安心して子供を生み育てることができ、子供達は「島の宝」として大切にされている。子供達は希望と意欲にあふれ、社会の中で十分な教育を受け、健全に育っている。</p> <p>島嶼性と遠隔性という不利な面を持ちながらも、充実した交通基盤と情報通信基盤が不利性を克服し、事件・事故、自然災害にも万全の体制が整っている。</p> <p>どの島に暮らしていても、人々は平和で安全に暮らしている。</p>	<p>・ 独特の歴史文化</p> <p>誇れる長寿県民性等、</p> <p>安全・安心な暮らし</p>	<p>○歴史・伝統文化等をどう守り・継承していくか。</p> <p>○誇れる県民性とは何か、それをどのように守り活かしていくか。</p> <p>○健康長寿の沖縄をどのように復活するか。</p> <p>○安心して働ける雇用環境をどう整備するか。</p> <p>○安心して子どもを生み育てる環境をどう整えるか。</p> <p>○社会保障や保健医療制度についてどう考えるか。</p> <p>○災害への対応や治安の維持等をどう図っていくか。</p> <p>○グローバル化の進展に伴う感染症などのリスクにどう対応していくか。</p> <p>○米軍基地から派生する事件、事故等が後を絶たないことは大きな課題。</p>	<p>●<u>歴史・伝統文化等を守るための仕組みと併せ、世界に発信する仕掛けを構築する。</u></p> <p>●歴史・伝統文化等を地域資源として保全しつつ持続的に活用していくことで、継承・発展を図る。</p> <p>●歴史・生活文化を踏まえつつ、肝心、イチャリバチョーデー、ユイマールなど県内外から 沖縄の良さと認識される県民性を、地域社会をはじめ様々な分野で活かしていく。</p> <p>★沖縄の長寿を支えてきた食文化を活かすとともに、ライフスタイルの見直しや地産地消、食育等を推進する。</p> <p>●働きたい人が働きたい職につける多様な雇用の場の確保や、仕事と生活の調和に配慮した職場環境など、労働者が安心して働ける環境整備を進める。</p> <p>●妊婦に対する保健医療体制の充実や地域における子育て支援、保育サービスの充実など社会全体で子育て等を支援する環境を整備する。</p> <p>●<u>社会保障、保健医療システム等の再設計により保健・医療・福祉の充実を図る。</u></p> <p>●地域コミュニティの再生等により防災・治安機能の向上を図る。</p> <p>★国際的な研究機関の誘致・創設により、地球規模の課題の解決に向けた国際貢献・協力の拠点を形成する。</p> <p>●米軍の綱紀粛正の徹底、地域協定の見直し等</p>



①めざすべき将来像		構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (下線は、構成案での基本方向) (★は、戦略的な基本方向)
[具体的な姿]				
歴史、 伝統・文化を尊重する 安心な島		離島の暮らし	○離島の暮らしをどう守り発展させていくか。	★教育、保健医療、交通、生活基盤の充実強化を図り、離島における定住条件をしっかりと確保していく。
		地域社会	○地域社会をどのように再生すべきか。 ○地域のネットワークをどのように形成すべきか。 ○暮らしの満足度など豊かさをどのように考えるか。	● <u>地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して世代間の交流を深め、コミュニティの再生を図る。</u> ● <u>地域住民と行政との連携により、共助・共創型のまちづくりを進める。</u> ● <u>物質的な豊かさのみならず、生活の質や福祉の充実度を含め、県民の幸福度が高まる社会の構築を目指す。</u>

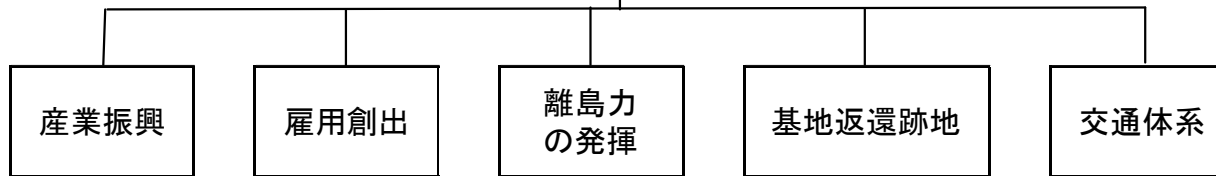
[実現効果]

沖縄の独特な伝統文化は、人々の誇りの源となっている。  
世界中で暮らすウチナーンチュの沖縄アイデンティティの拠り所となっている。  
琉球王朝時代から受け継がれてきた沖縄の資産として、経済的な効果をもたらしている。  
我が国、ひいては世界の文化の多様性の一角を担っている。

[めざすべき将来像]

希望と活力にあふれる豊かな島

[構成要素]



[将来像設定の意義]

沖縄は数少ない人口増加県であり、特に若者が多いことが大きな特徴である。この点は、人口減少社会に突入している日本の現状に鑑みれば、潜在的には大きな沖縄の強みであり、その強みをどう活かすかが重要である。  
また、大規模な基地返還が予定されており、返還跡地をどう有効活用するかも重要である。

その一方で、沖縄は、失業率が全国一、県民所得が全国最下位の地域であり、産業の振興、雇用の創出は重要な課題である。  
また、40余の有人離島を抱える島嶼地域であり、少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興は重要な課題である。

沖縄は全国で唯一、鉄道を持たない地域である。少子高齢化社会を迎えるに当たり、軌道系交通機関の導入を含む交通体系の抜本的な見直しが必要である。

大きな転換期を迎え、真の豊かさを追究する長期的な戦略をどう構築していくか。次世代を見据えて、その道筋の先鞭を付けることが現世代の責務である。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (下線は、構成案での基本方向) (★は、戦略的な基本方向)
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>人々は心の豊かさだけでなく、経済的な豊かさをも実感しており、希望を持って生活している。</p> <p>国への過度な財政依存から脱却し、民間主体の自立的な経済社会が形成されている。 ヒト・モノ・カネが域内で循環しており、経済と環境との調和も図られ、活力にあふれた循環型の経済社会が形成されている。</p> <p>地域資源を活用した地場産業が発展し、沖縄経済の主役となっている。 人々の間には「地産地消」の大切さが浸透し、地域の人々が地場産業の経営基盤を下支えしている。 また、社会貢献型ビジネスが盛んであり、これに従事する人々は、生活するに十分な収入を得ながら、地域貢献できる喜びを感じている。</p> <p>沖縄の優位性を図る分野への積極的な参入や地理的な特性の活用により、科学技術の振興と新産業の創出等が図られ、国内のみならず、アジア・太平洋地域との交流人口も増大し、外需をも取り込むことで地域経済が発展している。</p> <p>内需と外需とがバランス良く取り込まれた経済社会では、所得や就業機会の格差が少なく、人々は癒しの風土の中で、精神的にも、経済的にも豊かに暮らしている。 「住みよい島は呼びよい島」であり、国内外からの憧れの地ともなっており、多くの観光客が訪れ、経済社会の好循環が成立している。</p> <p>若者から高齢者まですべての人々が、安心して職を得て、働くことができる環境が整っている。特に、若者に対しては、それぞれの能力に応じた多様な進路や職場があり、自分に合った仕事を得ている。</p> <p>失業しても、働く意欲と能力があれば、すぐに新しい仕事が見つかる安定した雇用環境が整備され、チャレンジしやすい仕組みが確立している。</p>	産業振興	<p>○県外から収入を獲得するための産業をどのように育て、経済のエンジンとするか。</p> <p>○域内循環型産業をどのように育て、地域の安定・発展に資するか。</p> <p>○アジアの経済発展を沖縄の発展のためにどのように活用するか。</p> <p>○海底資源等の未利用エネルギーをどう開発するか。</p> <p>○あるべき産業構造について、どう考えるか。</p> <p>(富)国際観光拠点(観光のメッカ)の形成 (富)国際ネットワークの形成(CHINA CONNECTONの形成)</p>	<p>●シニア層を対象とした医療産業との連携やリサーチ&amp;リゾートなど戦略的な取り組みを進め、足腰の強い観光産業を確立する。 ●ソフトウェア開発・コンテンツ制作など情報通信産業の高度化を進める。 ●農林水産業の品質面・健康面の優位性を確立するとともに、地産地消のほか、観光や健康食品産業等の連携を進める。</p> <p>●優位性のある地域資源を持続的に活用するための戦略的な地域産業振興方針を策定し、計画的な取り組みを進める。</p> <p>★<u>沖縄の優位性を発揮できる分野への積極的な参入や地理的特性を活用し、科学技術の振興と新産業の創出を図る。</u> ●物流やコンベンションなどアジアとの交流に資する交流産業の振興を図る。 ●アジア・太平洋地域との交流人口を増大させ、人口減少に影響を受けにくい地域を構築する。 ★未利用エネルギーは、将来の資源活用の観点から国の支援の下、開発を進める。</p> <p>●上記を踏まえ、20年後の産業構造を展望する。</p>
			雇用創出	<p>○少子高齢化の進展による労働力人口減少の影響をどのように考え、どう対応していくか。 ○頭脳流入をどのように進めていくか。</p> <p>(富)発展するアジア市場での就職</p>

①めざすべき将来像		構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (下線は、構成案での基本方向) (★は、戦略的な基本方向)
[具体的な姿]				
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>離島では、第一次産業が基幹産業となっており、島内の需要を満たすとともに、充実した情報基盤を活用して、国内外に移輸出することで、収入を得ている。第一次産業は観光産業との融合が図られることで、魅力的な就業の場ともなっており、経済的にも、精神的にも豊かな生活が営まれている。</p> <p>こうした島での暮らしは、国内外の人々の憧れとなっている。</p> <p>沖縄は、国益を担う地域として、国との協力の下、独自の離島振興策を進めている。</p> <p>また、近隣諸国と積極的に独自の国際交流を行っている。それぞれの島の自立的な振興策は、人々のユイマール精神の支えもあり、沖縄全体としての希望と活力につながっている。</p> <p>嘉手納基地より南の在沖米軍基地の返還が実現している。</p> <p>返還が実現した基地跡地では産業振興が進む一方で、エコアイランドにふさわしい美しい街並みが形成されている。</p> <p>基地跡地は、かつて得られていた収入を補って余りある程の経済効果をもたらしており、持続的に発展する島を象徴する地域となっている。</p> <p>沖縄本島内には、南北に縦断する軌道系交通が導入されている。この軌道系交通機関を幹線として、コミュニティバスが走っており、多くの人々が、安くて便利な公共交通機関を利用している。</p> <p>公共交通機関の充実により、街を走る自動車の数が減り、交通渋滞がなくなり、さらには、事故も減り、安全な社会が実現している。</p> <p>高齢者等の交通弱者も、安くて便利な公共交通機関を利用し、外出を楽しんでいる。街を走る自動車は、その多くがエコカーで、環境先進地域として国内外から注目を集めている。</p>	離島力の発揮	<p>○広大な海域を持つ離島の重要性をどう位置づけるか。</p> <p>○地域資源をどのように産業化するか。</p> <p>○雇用の場をどのように創出するか。</p> <p>○離島の交通問題をどう考えるべきか</p>	<p>★排他的経済水域の確保や豊富な海洋資源の存在など日本の国益を担う地域として国が対応すべき内容等を検討する。</p> <p>★離島の持つ潜在能力を顕在化させる。</p> <p>●交流人口を増大させ、地域の産業や雇用の場の創出を図る。</p> <p>★離島発展のため、低料金の航空網を構築する。</p>
		基地返還跡地	<p>○2030年の在沖米軍基地の状況をどう考えるか。</p> <p>○県全体の発展のために基地返還跡地をどのように活用すべきか。</p> <p>○計画的かつ円滑な跡地利用をどう進めるか。 (富) 普天間基地跡地に新たな県都の設定。 (富) 返還跡地利用のロードマップの作成</p>	<p>●将来的には基地のない沖縄を目指す、2030年時点では、現在合意されている基地が返還されていることを想定</p> <p>★アジアの経済発展やグローバル化の進展に対応した産業振興や居住空間の確保等に活用する。</p> <p>★新たな跡地利用制度の創設</p>
		交通体系	<p>○公共交通ネットワークのあり方についてどう考えるか。</p> <p>(富) マストランジットの軌道(脱自動車社会)</p>	<p>★県土構造の再編を視野に入れつつ、軌道系交通機関の導入を含む「総合交通体系」の整備を進める。</p> <p>★離島を含む東アジア地域との国際交通ネットワークの構築を進める。</p>

[実現効果]

人々に、経済的な豊かさをもたらす。  
失業者がいなくなり、社会が安定する。  
少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興が図られることにより、国境離島を含む離島が安定的に維持される。  
国境離島の維持により、排他的経済水域の確保など国益に貢献できる。  
基地返還跡地が有効に利用されることにより、米軍基地の全面返還の機運が盛り上がる。  
社会的弱者が利用しやすい公共交通機関が整備されることにより、人々の生活の利便性が向上する。